

インターネットを介した創作の考察

——ベンヤミン『物語作者』をふまえて

安藤 孝美

1. 物語をめぐる現代の状況

ベンヤミンのエッセイ『物語作者』の中では、「物語」がゆっくりと衰退する傍ら「長編小説」というものが生み出され、更にその両方にとって脅威となりえる「情報」という伝達形式が、大量生産大量消費の社会のシステムと共に浸透してきたことが述べられている。それはまさに現代の状況についても的確に言い表している。いまや新聞やテレビのニュースはおろか、更に速く秒の単位で、世界中の、つい一瞬前に起きた出来事さえ伝えられるインターネットが伝達手段の主要なものになりつつある。しかしながら、インターネットによってやりとりされるデータの全てがベンヤミンのいう「情報」、つまり「それ自体で理解できる、説明し尽くされた、身近な出来事」だというわけではない。『物語作者』の中で述べられている「物語」とは大きく様相を違えているものの、どこかで起こった出来事そのままを語るのとは違う「創作」が数多く生み出され、インターネットを通じて不特定多数の「読者」へと届けられている。

そうして現代において生み出されている「創造的な物語（ストーリー性を含むもの）」は、『物語作者』で述べられているとおり、「経験を伝達し、読者に人生の助言をあたえる」という目的を一切持たない。現代では、人生に役立つ「経験」が語り継がれる必要はなくなってしまった。状況の変化が目まぐるしく、先人の経験など役に立たないということに加え、長い時間をかけ遠くの地に伝わっていく物語を待たずとも、一瞬で世界中から一時的に知識をひきだすことが出来てしまうし、過去数十年にわたる知識も、書物を捲る手間さえかけずにデータベースからひきあげてくる事が容易にできてしまう。つまり、何かに躓いたとしても“ググれ”ば大抵解決してしまうのだ。では、現代に存在している「物語（架空のストーリー）」

とはいったいどういう役目を果たすのだろうか。知識・知恵を伝達する機能を失ってしまった現代の「創作」は、ベンヤミンが言うところの「物語」から中身を抜き取った器のようなものなのだろうか。

2. 改変コピー（トレス）の増殖、動画共有サイトにて

現代の、それもインターネットを介する「創作」は、ベンヤミンの指摘している「物語」の性格とはもちろん大きく異なるが、しかし興味深いことにいくつかの点では「長編小説」よりも「情報」よりも「物語」のあり方に似通っていると思われる部分もある。特に私がそのように感じるのは、主に動画共有サイトで流通している「二次創作」の、中でも「手描きMAD」と称されるものである。

「手描きMAD」とは、既存の作品を「元ネタ」に、一枚ずつ描かれたイラストを紙芝居のごとく並べたり、アニメーションにしたりする、5分から10分程度の短いパロディ動画作品を指す。もともと「MAD」とは既存の映像作品（映画、ドラマ、アニメ等）や音楽・音声を編集し、つなぎ合わせて作られる創作のことを言うが、「手描きMAD」の場合映像に関しては元の作品を使用せず、動画作者（編集者）自身がイラストやアニメーションを描き上げることから「手描き」と書かれて区別される。イラストを並べるだけであれば「動画」という形をとらない二次創作と変わりはないが、「手描きMAD」の場合、しばしばBGMに歌詞のある楽曲が添えられ、歌詞の内容から連想されるストーリー構成をとる形式のものが多い。









ほとんどの作品は発表されればそれまでだが、一部の作品には、その

MAD作品そのものが「トレス」され、改変され、増えていくというものが存在する。一例として、「キス唾シリーズ」と呼ばれる動画群があげられる。左に表示した画像が、「キス唾シリーズ」の「本家」と呼ばれる、大本となった手描きMADのサムネイルである。これは動



『キス唾とは一ニコニコ大百科』（2011年3月7日確認）
(<http://dic.nicovideo.jp/a/%E3%82%AD%E3%82%B9%E5%94%B>)

画共有サイト「ニコニコ動画」に2008年11月12日に投稿され、「キスをしながらかみを吐け【遙か3】」という題がつけられている動画作品であり、Mr.Childrenの楽曲『掌』の歌詞の一部にあわせ、ゲーム『遙かなる時空の中で3』の登場キャラクターを描いたイラストが表示されていく。基本的に台詞など文字の類は書き込まれず、一見前後関係のわかりにくい単独のイラストが、「歌詞の解釈」という形でつながれていく。この動画がヒットしたあと、他のユーザーにより「トレス」された手描きMADが次々とアップロードされていった。それらはいわば「絵コンテ」の部分だけを残し、そのキャラクターはまた別の作品からとられたものになっている。その数は少なくともおよそ300にのぼり、元の作品の投稿から1年以上経った今も、新しいトレス動画が投稿されている(大きなブームは長くても1ヶ月弱で過ぎ去るインターネットの流れを考えると十分に長いスパンであるといえるのではないかと思われる)。

<p>10/03/07 06:26 投稿</p>  <p>再生:24,914 コメ:624 マイ:491 宣伝:0</p> <p>【デュラララ!!】瀧馬崎と符沢でキス唾</p>	<p>09/10/31 12:30 投稿</p>  <p>再生:23,519 コメ:412 マイ:542 宣伝:0</p> <p>レッドとカスミ(+α)でキス唾【手描き】</p>	<p>09/01/06 16:48 投稿</p>  <p>再生:21,563 コメ:659 マイ:334 宣伝:0</p> <p>【手書き金魂】十銀でキス唾【扇向け】</p>	<p>09/07/12 17:34 投稿</p>  <p>再生:21,175 コメ:698 マイ:499 宣伝:0</p> <p>【ぬりりくんの孫リクオ×つららでキス唾】</p>
<p>10/04/03 03:53 投稿</p>  <p>再生:20,444 コメ:799 マイ:1,337 宣伝:0</p> <p>【扇向け】帝/人受でキス唾</p>	<p>09/05/20 22:16 投稿</p>  <p>再生:19,434 コメ:403 マイ:670 宣伝:0</p> <p>【手描きエヴァ】カルとアスカでキス唾</p>	<p>09/11/08 01:15 投稿</p>  <p>再生:19,202 コメ:558 マイ:334 宣伝:0</p> <p>【手描きデュラララ!!】新羅とセルティでキス唾</p>	<p>09/03/27 20:14 投稿</p>  <p>再生:18,998 コメ:566 マイ:200 宣伝:0</p> <p>【フリーチ】キスをしながらかみを吐け【ウル織】</p>

ニコニコ動画の検索結果(キーワード検索「キス+唾」)画面の一部(2010年08月1日確認)
(<http://www.nicovideo.jp/search/%E3%82%AD%E3%82%B9+%E5%94%BE?sort=v&order=d>)

こういった「トレス(トレース)」動画は、ある種のパロディと同じく、「盗作」と「パロディ」の間で揺れており、「パクリである」として否定的な見方をするユーザー(視聴者)もいるものの、多くの場合肯定的に受け止められる傾向にある。その理由としては「トレス元(パロディという原作)」を明示しているから、とされることが多い。しかし、トレスMADのパロディとの大きな違いは、その作品を見るにあたって、明示してある「原作」を参照する必要がないという点である。トレス動画は引用元の絵コンテ＝『掌』の歌詞に対する解釈の部分だけを使用しており、最初の作者が提示した『遥かなる時空の中で3』に対する解釈の部分は置き去りになっている。そのために、「キス唾シリーズ」は知っていても『キスをしながら唾を吐け』の動画は見たことがない、あるいは、自分の好きな作品の二次創作による「キス唾」を面白いと思っても、「本家キス唾」は理解できない、特に面白いとは思わない(イラストのタッチや構図には笑っても文脈はくみとれない)といったユーザーが現われてくるようになる。当然、それをよく思わないユーザーが存在するのだが、面白いことにそれはどちらかという点と少数派であり、儀礼として「トレス元」を提示しながらも、原作を参照することなく絵コンテのみを消費するユーザーが圧倒的に多いであろうと推察される。

この「キス唾というストーリー」の受け取られ方は、ベンヤミンのいう「物語」のあり方に照らして似通った部分があるのではないかと思う。例えば、同じストーリーが違う形で現われてくるという点では、「かもじの美術家」と「散髪屋の見習い」に同じエピソードが見られることが思い出される。あるいは、物語は即時的に理解することができず、無意識の記憶に残り続け、いつしか自分の経験に照らしあわされたとき、初めてその物語を理解することができ、それを人に語りたくなる、ということが『物語作者』の中で述べられていた。「キス唾」について言えば、『掌』という歌詞の抽象的な意味が、『遥かなる時空の中で3』のキャラクター関係に照らしあわされたとき、動画の作者の中でひとつの理解(解釈)が成り立ち、それが語られたものが『キスをしながら唾を吐け』という作品となった、とい

うことはできないだろうか。さらにその作品を見た視聴者の中に、そこで描かれているキャラクターを知らない者がいたとき、初めはその動画のストーリーを理解しきれないが、しかしまた彼/彼女の中で「自分の知っている別の作品/キャラクター」と動画のストーリーが重ね合わさったとき、改めてその「面白さ」に気づき、それがトレス動画という新たな作品を生み出すモチベーションとなっている、ということが言えるのではないだろうか。その意味では、「手描き MAD」の読者と作者はベンヤミンの言う「物語」のあり方と同じように入れ替わっている。『キスをしながら唾を吐け』の作者は一人(ただし半匿名)だが、「キス唾」の作者は集团的なものなのだ。

この一連の現象を少し強引に「物語」のあり方と対比するとしたら、ここで伝達されている「経験」とは読者が生きていくうえで実際経験しうること、ではなく、あるフィクションを読んだときの解釈(ある意味で架空の経験)であり、それによって交換しているものは生きていくための「助言」や「知恵」ではなく、各々存在するフィクションの間に横たわっている「共有できる解釈」や「共通の認識」である。既存の作品をほとんどなぞって新しい作品とするのは、何も技量不足や手間隙の軽減を図りたいためばかりではないだろう(実際、「本家」となりうるような、解釈・構成を一から行っている MAD は山のように有り、たんにイラストの腕だけをとっても驚くほど上手い描き手は沢山いる)。こうした MAD などの消費がされる際に重要なのは「共有していること」であり(だからこそその動画「共有」サイトである)、ユーザーはその動画の製作者と、あるいはその動画を見た他のユーザーと、「解釈を共有している(同じように面白いと思っている)」と思うことで満足感を得る。だからこそコメント機能を用いて同じ箇所に集中して「www」「笑」の意味)とわざわざ書き込む労力を使い、自分が面白く感じた動画の再生数・コメント数が少なかったとき「もっと評価されるべき」と思い、自分の解釈と著しく違う動画を見かけたときに不快感を示し、時に(これもわざわざ)攻撃しようとしたりするのである。

3. まとめ

「物語」は長い時間をかけ、親から子へ、その先へと「経験」を共有してきた。しかし、いまや「経験」を共有することはできない。それに代わったのがインターネットのような、即時的に広い範囲とつながりをもつメディアによる「共有」の感覚ではないか。社会の流れの速さがほとんど限界までつきつめられようとしている今、ただでさえ歴史や地域共同体と断ち切られた中であって、孤独に小説を読み耽ることなど耐えられないのかもしれない。小説の読解もまた、ブログや掲示板を介し、積極的に交換されている。

クリッカー一つでコピーが可能になっていることをよく知っている者は、特に若い世代になるにつれ、作品と作者がかならずしも結びつかないものであるという感覚が強くなっている。彼らが互いにやりとりしているものは、著作物というよりも作品に対する「共通認識」そのものであるためだ。(著作権違反として動画が削除されることに対して不満をもらす者があるのは、純粋にその人が「その著作物を改変している」という感覚に違和感を持つからではないだろうか) 長い時間を渡っていく「縦」のつながりを失った現代人は、その埋め合わせとして、「横」のつながりを求めているのだろうか。同じ画面上に同じ構図のイラストがずらりと並ぶ光景を見て嬉しくなるのは、そういった孤独感が和らげられる気がするからなのかもしれない。

参考 URL

キスをしながら唾を吐け【遙か3】—ニコニコ動画(9)

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm5221754> (2010/08/01 確認)

キス唾とは—ニコニコ大百科

<http://dic.nicovideo.jp/a/%E3%82%AD%E3%82%B9%E5%94%B> (2011/03/07 確認)

トレスとは—ニコニコ大百科

<http://dic.nicovideo.jp/a/%E3%83%88%E3%83%AC%E3%82%B9> (2010/08/01 確認)

手描き・手書き MAD とは—ニコニコ大百科

安藤 孝美

<http://dic.nicovideo.jp/a/%E6%89%8B%E6%8F%8F%E3%81%8D%E3%83%BB%E6%89%8B%E6%9B%B8%E3%81%8Dmad> (2010/08/01 確認)

参考文献

濱野智史著『アーキテクチャの生態系 情報環境はいかに設計されてきたか』

2008,NTT 出版

福嶋亮大著『神話が考える ネットワーク社会の文化論』2010, 青土社